

令和4年度第2回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和4年10月4日(火) 午後2時00分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	田口 知 明
仙北市教育委員会教育長	須 田 喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員	橋 本 勲
仙北市教育委員会委員	細 川 伸 也
仙北市教育委員会委員	田 口 桂一郎

(市長部局)

仙北市副市長	赤 上 陽 一
総務部長	小田野 直 光
総務課長	畠 山 徹
総務課主事	佐々木 明日香

(教育委員会)

教育部長	藤 村 幸 子
教育次長兼学校教育課長	鈴 木 徹
教育次長兼角館公民館長	佐々木 信 介
教育総務課長	湯 澤 満
学校適正配置準備室長	若 松 正 輝
北浦教育文化研究所長	門 脇 貴一郎
生涯学習課長	武 藤 寛 幸
中央公民館長	高 橋 良 宣
市民会館長	信 田 昌 史

案 件

(1) ヤマメ・サクラマスプロジェクトについて

- (2) 学校適正配置に係るアンケート調査などについて
- (3) 角館東地区公民館・体育館の在り方について

小田野総務部長 皆様、こんにちは。定刻より少し早いですが、皆様お集まりのようですので、ただいまから令和4年度第2回仙北市総合教育会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございます。はじめに、会議の主催者であります、田口市長からごあいさつをお願いしたいと思います、田口市長お願いいたします。

田口市長 大変お忙しい中、本日仙北市総合教育会議にお集まりをいただきましてありがとうございます。

また、細川委員には任期満了に伴って、再任にご承知いただきましてありがとうございます。心から感謝申し上げます。

私事ですがけれども、実は去年の10月3日が市長選の告示で、10日が開票ということで、もう1年がたとうとしております。この1年間振り返ったときに、仙北市の様々な課題等について知ることができましたけれども、旧公立病院の解体であったり、上下水道の老朽化の問題だったりがあるのですが、その中でも私が非常に課題として大きいなと考えているのは、次世代の、これからの学校教育に関して在るべき姿、また、校舎の老朽化等に伴う子どもたちの教育環境についての今後の取り組みについて、非常に私としても大きな課題として捉えております。

これからこの地域の子どもたちの教育環境をどのように作っていくのか、また守っていくのか、そういったことで今日の案件にもございますけれども、学校適正配置に関する様々な地域住民の皆様からのご意見等のアンケートがありますけれども、ここをしっかりと取り組んでいかなければ、本当にこの地域

の将来はなかなか切り開けないなということで、そういった考えを今でも思っております。委員の皆様にはこの会議を行うために忌憚ない意見をいただき、本当に助かっております。

本日もこのヤマメ・サクラマスプロジェクトについて、それから今触れました学校適正配置、そしてあとは旧東小学校、角館東小学校、東地区公民館の今後の取り扱いについてと非常に重要な協議案件でございますので、どうか引き続き皆様の方からもご意見を賜ればと思います。

どうかよろしく願いいたします。

小田野総務部長 田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からごあいさつをお願いいたします。

須田教育長 本日は田口市長、赤上副市長、小田野総務部長、そして総務課の職員、教育委員会から教育委員の皆様のご参加のもと、2回目の総合教育会議の開催できましたことに感謝申し上げます。教育委員会事務局から今日の議題に対して、三つについて提案させていただきます。

1点目の仙北市ヤマメ・サクラマスプロジェクトについてですけれども、来年度から本格実施というところで、部長が中心となりまして、関係各課と調整を図っているところです。

教育委員会事務局内におきましても、何度も協議を重ねてきました。今日は門脇北浦教育文化研究所長から具体的な提案をさせていただきます。

また、生涯学習課が進める若者の交流の場とする公民館や市民会館主催の講座については教育委員会の20代、30代の職員を集めて、どのような講座にしたいか検討する会も考えております。そのようなことを提案も今日させていただきます。

2点目が学校適正配置準備室からの報告です。この前の懇親会の折に、門脇総務文教委員長の方から西木地区でこの4月から生まれた子どもの数が1人であるという話をされまして、本

当に驚いたそうです。今日、室長に本当か確認させましたところ、1人でした。ということで、8月29日に1回目の学校適正配置検討委員会を開催しましたが、その件につきましても今日、室長の方からご報告をさせていただきます。

それから3点目は角館東公民館の閉鎖問題についてです。この件につきましては仙北市の政策会議でも話題がありましたが、今後のスケジュールについても今日提案させていただきたいと思います。

それでは本日はよろしく願いいたします。

小田野総務部長

次は、本日、副市長が着任後初めての総合教育会議の出席となりますので、赤上副市長からごあいさつをお願いいたします。

赤上副市長

皆様こんにちは。7月1日に着任させていただきました赤上と申します。どうかよろしく願いいたします。

私、前職は産業技術センターというところに勤務しておりました。秋田県の人口減少というものは、その段階からも難しい問題だと思いつつも、私なりにいろいろと研究させていただきました。やはり雇用の場の案と言っても、創出。それも、やはり若者も含めてというところを協議させていただいた結果、やはり研究開発型または開発型の企業でないと、なかなか子どもたちも目が向かないのではないかとということで、今までおよそ10社程度回らせていただきました。その結果なのですが、社会貢献をきちりされている企業さんが、今残っているというか、訪問させていただいた企業でした。残念なのが、子どもたちにインパクトのあるような、私の企業はこういうことで社会貢献をしているのだけというの、あまりお伝えされてないんじゃないかなという1点が、これから市を挙げて取り組まなければいけないことかなと考えております。それはひとえに、このヤマメ・サクラマスプロジェクトに私は関わっているので

はないかと思えます。

ということで、企業様にも子どもたちに夢を与えるような授業を行いますというお話をして、協力を要請したところ、全ての企業から承諾をいただいたところでもあります。ですので、これから具体案に入っていくと思えますので、ぜひとも皆様方からですね、忌憚のないお話をしていただければ、産業の方からもバックアップができる形に持っていければと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

以上でございます。

小田野総務部長

はい。ありがとうございます。それでは今日の協議案件でございますけれども、ヤマメ・サクラマスプロジェクトについて、学校適正配置に係るアンケート調査などについて、東地区公民館・体育館の在り方についての3件でございます。ここからの進行につきましては、田口市長の方からお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

田口市長

はい。それでは、ここから私が進行を務めさせていただきます。今回の議事録署名人は、須田教育長と橋本委員のお二人にお願いしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。議事録が完成次第、署名をお願いすることになりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、協議案件に入ります。協議案件（1）ヤマメ・サクラマスプロジェクトについて、担当から説明をお願いします。

鈴木教育次長兼学校教育課長

教育次長の鈴木です。始めに、私から教育委員会の構想をお話します。こちらは、キャリア教育において、幼・小・中・高でそれぞれ身に付けたい力、資質能力の系統図です。これを「仙北市幸福度No. 1 構想 教育版」と銘打ちました。目指す子

どもの姿、教育目標、創りたい地域像を挙げております。また、目指す教育方針として、3つ挙がっていますが、これは学校適正配置準備室が二十歳の集いの参加者と角館高校2年生からのアンケート結果からのものです。この後、小・中学生、保護者、一般市民にアンケートを行いますので、その結果、教育方針と資質能力は変わるものと思われれます。よって、これは素案となっています。

では、教育委員会が進める「幸福度No. 1構想」は、プロジェクト1「問いを発する子どもの育成」言語活動の充実・共感的な集団づくりです。11月2日に市の研究会がありますが、そのテーマでもあります。学校教育において、骨太の人間の基礎を培っていきます。

次に、プロジェクト2「CS（コミュニティ・スクール）・学校適正配置の実施」です。子ども・保護者だけではなく、地域住民を巻き込んで、子どもの未来をみんなで創っていきます。

最後に、プロジェクト3「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」通称ヤマサクプロジェクト、もっと略しますと、YSプロジェクトです。このプロジェクトにより、仙北市を元気にしていきたいと思えます。では、その詳細については、門脇所長から願います。

門脇北浦教育
文化研究所長

はい。北浦教育文化研究所長の門脇です。ここからは私の方からお話をさせていただきます。YSプロジェクトに関しての具体的政策に関して、教育委員会で話を揉ませていただきまして、プロジェクトの狙いですがけれども、仙北市を舞台に、仙北市の未来をつくる若者を育てていきたいと、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子どもを育成していきたいと考えております。私たちは都会に出て行ってということとずっとこうやってきたわけではないんですけれども、人口の自然減が止まらず、気が付けば現在のような状況になってお

ります。何とか地元を背負って立つ自覚と志を持った子どもに育ってほしいという気持ちを持ってこのプロジェクトを考えております。

具体的政策、これからお話しさせていただくことは、まず大きく分けて7点となります。中学生の職業講座、キャリアマイスターによる講演、夢ガイドブックの作成、わらび座事業、中学生職場訪問・職場体験、小学生職場訪問・職場体験、その他ということになっています。こちらの方ですけれども、来年度から、こちらの方のプロジェクトに関わる専門のスタッフをできれば配置していただきまして、強く推進していくことができればなど考えております。

では、個別に見てまいります。中学生職業講座であります。今まで仙北市の方では、地域企業が自分の企業の魅力、生き方等を中学生に対して説明するという機会は全体としては無かったわけです。それを一堂に会して行いたいということであり、今年度、試行的に11月10日の1時半から神代中学校2年生を対象に行うことが決定いたしました。副市長の方より、講演を入れてみてはどうかということで、小西様という方から講演をいただき、いろいろな考えを深め、そしてまた広め、深めていくような、そういうような1日にしたいなというように考えております。ですから、内容としましては、現在を知る、未来を知る、その講演と、AI講話となりますけれども、それプラス、市の企業の方が自分たちの生き方を子どもたちに伝えるという、そういう1日になってもあります。これは来年、来年度からは全ての中学校で一堂に会して行いたいと考えております。

続きまして、キャリアマイスターによる講演であります。生き方を子どもたちに伝える集会というように考えていただければと思います。角館中学校などでは、これまでも「ようこそ先輩」ということで、先輩のその生き方を学ぶようなそういう集会が行われてきておりました。案外、中学校では充実してい

るのですけれども、小学校の高学年の段階から、全校でやりたいという思いを私たちとしては持っております。現在の事業等を色々精査して、より良い形を検討して実施していければなどというように考えております。子どもたちの、大人になっていくにあたっての、その生き方を考えていくことに繋がっていくのではないかなど、私たちとしては考えております。

その次です。夢ガイドブックの作成です。具体的なものを、他の市町村の実際のものであればいいのですけれども、例えばこの人はこういう生き方をして頑張っている、こういう企業がこんな頑張りをしている、というものを本にまとめていきたいと思っています。現在の構想では、人の本、それから企業の本の2冊を作成していく予定でおります。なぜかといいますと、小学生はまず、人というものをターゲットに、それから中学生になってくると人だけではなくて企業をターゲットに本を作成していった方が、子どもたちの方には意図が伝わりやすいのではないかというような気持ちを持っております。できれば、若い人を中心にこの冊子の記事にしていけば、より子どもたちに地域が抱える問題とか、大人の頑張りが伝わっていくのではないかと考えております。

続いて、わらび座事業であります。わらび座という素晴らしい劇団があります。今年は、補正の方で予算措置をしていただきまして、12月に6回実施することになりました。6回というのは、田沢湖地区、神代地区、桧木内地区、西明寺地区、それから角館地区が子どもたちが多い地区ですので、角館地区に関しては2回に分けてということになります。劇団員の方の素晴らしいそのパフォーマンスに触れるだけではなくて、なぜ仙北市で頑張っているかということ、日本三大ミュージカルと呼ばれるこの方々のその生き方に触れていくということを現在相手方の担当の方と強く打ち合わせをしておりますので、子どもたちにとって、その地域に生きる、地元で生きるということの大きな考える材料になるのではないかなどというように考え

ております。

続いて職場訪問です。中学生の職場訪問に関しては、現在、全ての学校で行われておりますが、ほとんどの学校で2日間実施ということになっております。教育長の方から、できれば3日以上実施して欲しいということを経験会の方で提案をさせていただいております。経験会の方で、それが実施が可能なのかということを検討、検討というか考えているところです。やはり企業の方から影響を受けるという、そういう機会を充実させていきたいということから、日数を増やすということを考えているところです。

続きまして、小学生の職場訪問、職場体験に関してであります。小学校の方では職場等の職場体験というのは実施されていないのが現状であります。あまり小学校ではやらないです。ただ、早い時期に自分のキャリアに関して、その地域の企業に関して、人に関して影響を受けることというのは大切ではないか、という思いからこのように考えました。夏休みの職場訪問、職場見学を小学生の希望者を対象にやってみたらどうか、来年からはこのような形で実施していきたいなというように思います。パンフレットを作りまして、手を挙げたお子さんに対してこのようなことをやっていければなと思います。

それから、小学校に関して言うと、一番大切なのはこの地域巡りというところだと思うのです。今日も、西明寺地区でくりっこ探検隊というのがあります。聞かれたことありますでしょうか。何をやっているかという、それこそ生涯学習課に話をしてもらった方がいいかもしれないですけども、地域のお肉屋さんであるとか、それから地域の自転車屋さんであるとかをかわいい1年生、2年生が先生と一緒に訪問しまして、昔はここでこういうものを売っていただとか、昔はこういうものがあったとか。それから、私の息子が小学校1年生と2年生ですけども、kimotoさんとかに行きまして、前はただの肉屋さんでしたが、今ちょっとしたフレンチっていうのでしょ

か、そのような形で頑張っているようなことも、実はかなり小さい段階から小学生が触れさせてもらう。それは、何もキャリアということ意識しているのではなくて、地域探検というところから始まって、そういうことがここで言う、小学生の職場訪問、職場体験というものに一括して含まれるものだというように考えていただければ分かりやすいかと思います。

その他ということで、公民館事業に関しても少し触れさせていただきます。若者のコミュニティを作っていくことが非常に大切な時代なのか、というようなお話を教育委員会内でさせていただいております。その時に、やはり公民館が果たす役割というのは、いろんな仕掛けを考えております。現在、利用者は高齢か若者。そして更に集めたいので、若者を対象とした講座の開設はできないか。高校生以下もターゲットとするような形、eスポーツ、ダンスなどはどうか。中には、T i k T o kであるとか、そういうインスタ映えを狙う講座であるとか、そういったものも含めて考えたらいいのではないかというようなお話もありました。何とかして若者の緩やかな交流を目指していきたいというところであります。

あと、ちょっと余談になりますが、現在結構ですね、いろんな仕掛けをしているのですが、定員がいっぱいになってくるのが早いので、なんとか受け入れの数を増やしていただければというようなお話も委員会内で出たところであります。

最後となります。仙北市子ども議会というものがあります。3年に一度行われておりまして、今年度は仙北市子ども議会の年に当たっております。子ども参画型の市政を考えております。要は、子どもたちが市を活性化していくために提言をさせていただくというような形になりまして、何とか子どもたちが提言するだけではなくて、それに対して意見を返していただきたいと。そして、実行できてとても良い案のものに関しては、予算措置をしていただければ、実施していただければ、子どもたちも自分たちの考えが反映されて、この市で生きていこう、こ

の市でより良い提案をしていって、支えていこうという気持ち
が生まれるのではないかというような考えをしているところ
です。

簡単ではありますけれども、私からは以上であります。

田口市長

それでは協議案件の（１）であります、ヤマメ・サクラマス
プロジェクトについての説明がありました。そもそもヤマ
メ・サクラマスプロジェクトの名前の由来を教えてください
なのですが。

鈴木教育次長
兼学校教育課
長

私の方からよろしいでしょうか。ヤマメとサクラマスとい
うのは同じ魚であると。陸型というか、ずっと内陸にいるの
がヤマメであって、1回海に出るのがサクラマスであります。
ここで住み続けてほしいという気持ち、1回都会に出ても戻っ
てきてほしいという。更に言いますと、1回都会に出て行って、
海に住み続けたとしても、心のどこかで仙北市のことを思い
続けてほしいという気持ちからその名前といたしました。

田口市長

はい。ありがとうございます。それではただいまの説明に
ついてご意見ご質問をお願いします。

橋本委員

7つの項目全てにコメントはできないですけれども、その前
にまず、先ほど教育長からの西木地区で子どもが1人しか産
まれてないという話がとても衝撃的でした。私も広報誌を見
て、西木地区の出生が無いなというように思っていたんです
けれども、とてもびっくりしたところです。

先ほど、門脇所長の方からお話あったように、学校を卒業
して全ての生徒が地元に残ることはできないと思いますけれ
ども、この4つ目の仙北市から出ても心のどこかで仙北市の
ことを思う人間であってほしいというのは、非常に大切なこ
とだと思います。それが将来、仙北市に何かしらのプラスア

ルファをもたらしてくれるのではないかと思います。

私がちょっと考えてきたのですけれども、一つは仙北市版のキャリア教育ですけれども、角館高校2年生のアンケートの中で、将来地元どんな仕事があれば就業したいですかという問いに、これは普通高校ということもあるのでしょうかけれども、農業・林業・土木建設と回答した生徒はほとんどいない状況でした。仙北市を支える大切な仕事であると思います。こういう職種にも興味を持っていただけるような仕組みが必要ではないかなというように思いました。

それから仙北市夢ガイドブックの作成についてですけれども、これはちょっと難しいかもしれませんが、仙北市内の人、事業にプラスをして、仙北市内から通勤圏内にある大仙市などの企業や人、それらが紹介できるとすれば子どもたちにとって選択肢が増えるのではないかとこのように思いますので、検討していただければというように思いました。

それから、若者交流プロジェクト関係では、もう既に市民会館の方で1回目が行われたようです。子どもから大人まで大勢の方が訪れていました。こうした企画を継続することで、何か仙北市は面白いことやっているなということで、他の大仙市とかそういうところからも若者が来ると思います。そういう中で人の交流が生まれると思いますので、ぜひ頑張って取り組んでいただきたいというように思います。

このプロジェクトを実行することで、何か今までの学校と違ってきたなっていう、そういうところが皆さん感じてくると思います。ぜひ難しい面もあると思いますが、頑張って取り組んでいただきたいというように思います。以上です。

田口市長 はいありがとうございます。田口委員お願いします。

田口委員 まだちょっとまとまっていないのですけれども、何点かお話しさせていただきます。

まず、今日、ヤマメ・サクラマスプロジェクトの具体的な中身について非常に詳細なインパクトのある提案をしていただきました。短い間にこれだけの内容をこうした形で進めて提案していただいて一つ、エンジンとギアをいれて、スタートダッシュをかけるっていう意気込みが感じられるような中身で感心いたしました。

やはり、何よりもヤマメ・サクラマスプロジェクトは何を目的に、どのような系統性で、どのような計画でいくのかというあたりのグランドデザインがしっかり明示されたという印象を持ちました。何をやるにもインパクトのあるグランドデザイン、学校ではそれを受けてカリキュラムをデザインしていくと思いますけれども、その参考になるようなインパクトになる系統性、あるいは目指すもの、方針、そういったものが具体的に提示されたという、大変素晴らしいと思いました。これから学校、あるいは市民に理解していただくために、本当に分かりやすい資料になっているという印象を受けました。

2点目ですけれども、プロジェクトが具体的に7つ提案されております。どれも魅力的で、具体的で、楽しみな内容だと思います。今考えられる方策も全てを網羅されているのではないかと思いますし、これには重点的に年次計画で進めていくものもあるでしょうし、実施していくという事業もあるだろうし、順序をつけながら推進することになると思います。それにしても、これも着実に予算が必要だと思いますし、それを学校あるいは職員の多忙化を防ぎながら円滑に運用していくためには、人というものも必要になってくるのではないかと思います。学校に全部頼むのではなく、学校の事務職員全員でということじゃなくて、やはりそれを推進していく人員の確保ということもできればお願いしたいものだなと思います。

3点目はですね、先ほど副市長からヤマメ・サクラマスプ

プロジェクトを応援し、全面的にバックアップしたいというようなお話がありました。大館市がその地元に残る教育先進地ということで、地元の企業と教育委員会と、あるいは学校とかで。協議会を作って職場体験の場の提供なり、将来子どもたちがこの地元に残るための連携の在り方、あるいは毎年実施する職場体験の結果を受けて課題を明確にしたり、求められる人材に育てるためには何が必要なのかを協議したりというようなことを10年前から大館市では推進されたという記憶を私は持っています。

後で確認していただきたいのですが、先進地として素晴らしい内容を企業と一体になって連携しながら進められているそういう先進地もあろうかと思えますので、先ほど副市長からもお話もありましたけれども、そうしたことで学校や教育だけの頑張りではなくて、やはり社会を巻き込んで企業を巻き込んで連携しながら、この事業を展開していくということで社会現象として、あるいは新規の課題として子どもたちはもちろんだけれども、地域に協力いただいてみんなで一緒に考えていくというような、こういうようになっていくのかな、というように考えていただければと思います。以上です。

田口市長

はい。ありがとうございます。では、細川委員お願いします。

細川委員

ヤマメ・サクラマスプロジェクトの構想内容を非常分かりやすく取りまとめていただきましてありがとうございます。

私もいろいろ資料を読みながら考えさせていただいたのですけれども中学校の職場訪問をうちの子どもたちも体験させていただいて、すごく勉強になったということ子どもたちから聞いています。小学生の子どもたちに体験させるというのもすごくいい機会だと思います。将来の自分の選択肢の中

の一つになるのかなと思っています。

もう一つは、その他の中央公民館の協議内容に、InstagramだったりTikTokだったり、今すごく日常的にも流行っている、子どもたちもしかり、若い方々もしかり、こういうもの使って情報発信しているのでぜひこういうのを活用しながら、例えば防災キャンプとかっていうのも書いていたのを見ましたので、例えばインスタ映えする防災キャンプとか、仙北市のいろんな環境が整っている中で、こういうような事例をしながら、日本だけでなく世界にも発信できるSNSというのを、うまく使って仙北市アピールできればなと思っています。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。では、坂本委員お願いします。

坂本教育長
職務代理者 はい。サクラマスの坂本です。7つのプロジェクト、大変良くまとめられていて、どれもご興味を持てる内容だと思いました。その中でちょっと気になったことがいくつかあったので、私個人の意見ではありますが、お話しさせてください。

まずですね、順番がバラバラになりますが、職場体験を3日間受け入れるというお話がありました。ちょっと自分の体験からなのですが、今年の8月の終わりに、うちの夫の会社で、中学2年生の生徒さん3名を、IT関係の会社なので受け入れました。会社に来たときに聞いてみたら、それほどコンピュータに興味があるわけではないという感じが、ここにあてがわれた、ここに行けと言われて来たみたいな印象がちょっとありましたので、コンピュータやパソコンに興味がある子に、うちとしては来て欲しかったというところがあります。ただ、その中でこの3人どうやってコンピュータに興味を持たせようかということで、windows 11を作らせました。パソコンを作ってもらったら、それに電

源が入って動き出したときに歓声が上がりまして、おそらくあの3人は、来たときよりはパソコンに興味を持って帰ってきてくれたのではないかなと思っています。

ただ、ほかの企業に行った生徒さんの話を聞きますと、2日間ずっとパンフレットを詰める作業でした。資料整理だとか。それだと、もうこの企業には入りたくないなど言っていましたので、やはりそこは企業側も3日間あるので、うちはこんなに面白いところだよ、君たちぜひおいでってというような、そういうことをさせてあげたらもっと楽しいだろうなど、キャリアの選択の幅も広がるのではないかと思います。企業側も3日間の対応は大変だと思います。そのために、スタッフを張り付けなきゃいけないこともありますでしょうし。であれば、3日間充実した内容になるように考えていただければなと思いました。

次に、このプロジェクトなのですが、おそらく多くの方が就職ということで企業に入ることを前提に考えられていると思います。ただ、こういった地域ですので職業の選択が限られてしまうことは否めません。ですから、もう少し幅を広げて、例えばここからの通勤圏内である大仙市、あるいは北秋田市の空港などでは、十分に通勤圏内だと思います。そういったところまで広げてですね、可能性を妨げないようにしてあげたいなと思います。

あと、起業ですね。起こす業務に関しても、今ある会社にいるだけがサクラマスで帰ってきてやることではなく、自分で学んできたことをここで起こすということもできると、そういったロールモデルのような方を紹介するのもいいのではないかと思います。

すいません、先ほど齋藤瑠璃子さんの名前がでましたけれども、齋藤さんは、決して写真家ではありません。彼女が撮った写真、それこそSNSにアップされている写真がすごく良かったので、8月号のエスプレッソ表紙として使わせてい

ただきました。ただ、彼女は美大を出て、家業の椎茸農家を継ぐために帰ってきて、そんな色々な暮らしのモチーフもありますので、何か面白いことをされるんじゃないかなという期待はあります。簡単ですが、以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。教育長から何かありますか。

須田教育長 ぜひ副市長から、起業について参考になるご意見いただければありがたいと思います。

赤上副市長 どちらの意味の起業でしょうか。

須田教育長 起こす方の起業についてお話しいただきたいです。

赤上副市長 今、起業のキーワードとなるのは、IT関係です。ぱっと思いつくのが、福祉関係において非常にアナログ的かというと、例えば、訪問したご家庭の状況だとか健康状況だとかを当事者とお話しながら書くのですけれども、大体10分から15分くらい時間を要するようです。それをデジタル化にしてキーワードを用意しておいて、これを選択することによって、5分ぐらいで済ますことができます。

おおよそ、そういう介護される方は5件から10件くらい回りますので、デジタル化することによってプラスで2人見ることが出来るだとか、こういったフォーマット作成とか通信形態の内容をスタートアップ企業さんに作っていただくとかというようなことは、十分に考えられると思います。

この間、本市でも、それこそワーケーションモニターツアーみたいなものをやらせていただくと、やはりIT関係の企業さんからお越しになりたいという話も聞こえます。その中で、この仙北市で仕事がなければ、なかなか来づらいということもありますので、そういったところを我々が社会課題提

案して、こういったところをアナログからデジタルに変えることによって、併用できるのではないかとということを提案できればと思いました。

もう一つはですね、これだけ人口減少が甚だしい中で、夢かもしれませんがけれども、小学校の高学年、もう少し小さくてもいいかもしれません。小学校の3・4年生あたりからもうIT、英才教育をしてしまうと。おそらく3年ぐらいやってしまうと、中学校一年生くらいです、今東京でやっているようなIT関係の技術に追いつけるといいます。よって、そういう若者たちが仙北市から出て行ったとしても、なんだ東京の技術レベルもこんなものかと、だったら空気の美しい仙北市で仕事ができるじゃないか、という時代になってくると思いますので、もうこの子どもたちに英才教育をしていただくという、尖った内容の教育があってもいいのではないかと思います。こういったことをやっていけば、仙北市は非常にSNSに取り上げられるのではないかと。

ちょっと無責任な発言をしてしまいました、そういうことでもやらないと、この市に例えば親が移住して子どもたちを連れてきて、この小学校に入れたいと思うような人が増えないのではないかと思います。

島根県に確か海士町というところがあって、そこではいろんな取り組みをしていて、社会に疲れた子どもたちが親御さんと一緒に移住してくるというものもありましたので、そのいわゆるサイエンス版というかエンジニア版を提案して、立ち上げていただければですね、人口減少の抑制、並びに若干は増加に期待できるのではないかと思います。

田口市長

はい。各委員の皆様から、ヤマメ・サクラマスプロジェクトに関しては高評価というように受け取っております。様々な課題がありますけれども、いずれにしても、皆さん触れている通り、こういう夢ガイドブックであったり、要はこの地

域で生き続ける理由、そこで働いて生活をしていく、暮らしをする理由、なぜここに残るのか。先ほどの起業の話もそうですよね。なぜ起業するのか、ということをも単純に起業した人間から話をしてもらおうと。なぜあなたはここで起業したのですか、と。多分そこに大きな理由があるわけです。

私の方から情報提供させていただきたいのは、近々、仙北市広報にも載りますが、今回、市民意識調査を実施しました。3,000人をお願いして1,200名程度、4割ぐらいの回答率でしたけれども、「この地域に愛着がありますか」「住み続けたいですか」「住みやすいですか」というのは大体、概ね半分以上がイエスという答えでした。ところが家族、友人知人に移り住んでもらうことをおすすめてできますかという問いには26%ぐらいしかイエスが無かったです。75%が勧められないという回答でした。これは家族というのは、多分、親からすれば子どもになるのかと思います。自分は愛着を持って住み続けるし、まあまあ住みやすいのだけれども、子どもには住めとは言えないというアンケート結果が出たんですよ。極端な数字です。25%しか勧められない、これはなぜなのかということだと思いますが、ここが多分、このヤマメ・サクラマスプロジェクトにも通ずるものがある、現状はそうであるということです。

では、坂本委員のようにサクラマスになって戻ってきてもらうために、我々はどうしたらいいかっていうところがこの今回のプロジェクトの一番大きな意味なのか、というように思って聞いていました。

若干、検討させていただきたいのが、橋本委員からも坂本委員からも触れられておりましたけれども、仙北市以外の企業も含めたというような話がありました。ここについては、基本的には仙北市のサクラマスプロジェクトということで、仙北市内の企業というのを前提としていたと思うのですが、ここについてのご意見を皆さんからお伺いしたのですが。大

仙・秋田市も含めて、その地域の子どもたちの可能性を追求する、可能性を広げるためにはそういった企業者とのマッチングというか、情報も必要なのではないかという委員からのご提案がありましたけれども、そこについてご意見いかがでしょうか。教育委員会からでもいいです。

門脇北浦教育
文化研究所長

はい。教育委員会の委員の中でもいろいろ意見がありました。通勤圏内というお話をしていただいたのが、この事業と一緒にやってくださる県の地域振興局の方であります。

県の地域振興局の方で仙北市ということであれば、大仙とかにもよく行ってらっしゃるので、そちらの方も対象にしますか、と。これは、企業説明会のことでありますけれども。それもありませんよ、ということで少し広く捉えてはありましたが、秋田市ということ为先ほど坂本委員の方から聞きまして、私個人としては、意識の中から抜けていたなと反省したところです。現在12企業の説明会を11月10日に関しては行う予定で頑張っておりますけれども、少なくともその内の8社くらいは仙北市の事業でという形で調整をしているところです。

田口市長

その理屈からいくと雫石町なども対象ですよ。そこについてちょっと継続して検討していければと思います。

もう一点。職場体験のその体験先の方との意識の共有というか、何のためにその職場体験をさせるのかということを受け入れ側の企業がしっかり理解してくれるのか、そこはどうですか。

門脇北浦教育
文化研究所長

はい。やはりそのような問題はあるというように私たちの方でも考えております。

一番大切なのは、今回の企業説明会でもそうですけれども、やる側の市教育委員会であったり、学校であったりということ

ころが、その意図を伝えるというよりも共有し、頼むから一緒に子どもたちを残すために頑張っていて欲しい、頑張っていて考えて仕事をさせて欲しい、というところになってくるのだと思います。

正直、学校側に更に大きな負担をかけることができないので、そのためにアドバイザーといいますか、来年から専属の方に1人入っていただければ、教育委員会の中としては地域と一緒にやっていくための地域学校協働活動とか、コミュニティスクールという組織が出てきていますので、その中で、地域と地域にお願いではなくて、地域と協働して子どもたちを育てていく、ということを充実させていきたいと考えているところです。まさにおっしゃる通りであります。

田口市長

これはそこが肝で、じゃないと単なる労働力をただ派遣してしまって、嫌になって、こんな地域なんかもう絶対戻ってきたくないと、逆の結果になりかねないので、そこは職場体験の企業に関しての情報をぜひ共有させていただいて、そこが非常に重要ですので。

坂本委員

うちの会社で中学校から電話があって、職場体験を受け入れてくれないかという提案があったときに、非常に遠慮気味にその担当の先生が喋られて、掃除でも何でもいいですからやらせてくださいっていう感じなんですよね。なので、働かってなんだかっていうことを知らせたいというような、そういう姿勢も感じられました。ですが、せっかく来てくれるのであればやはり職場を知ってほしいと思いましたので、学校側との共有も必要だと感じました。

田口市長

なるほど。受け入れていただけるのであれば、みたいな低姿勢で言うと、逆に子どもがそのような扱いをされてしまうっていう、そこは先ほどの田口委員の方から大館の先進事例

でその企業と教育委員会とが連携してっていうところの、今回のプロジェクトに関してはこういう目的のもとにやるので、ということを経営にしっかり伝えていくことが、ただ生徒を受け入れるのが目的じゃないと思いますので、そこについてはぜひこういった形で改善していただければと思います。

須田教育長

それについて一つよろしいですか。

実は、この市の研究会の時に大館の教育長さんをお呼びして講演してもらったことをお願いしているわけですが、この4月に東北の教育長会議やったときに、去年あたりからヤマメ・サクラマスプロジェクトの漠然とした案は自分で持っていました、大館の教育長の話聞いて、これはもう絶対仙北市でもやらなきゃならないのだと確信したわけです。

10年かかったって言うのです、大館も。やはり企業と学校とそれから市もしくは委員会がタイアップして、実績を上げるまで。高校生の、いわゆる大館市の定着率がとても上がったということでした。大館には大企業なんかもあるので、なかなかうちの方では厳しいところはあるのですけれども。大館市は何も無いところだっというように住民が捉えていたそうです。ところが、いわゆる大館市型のキャリア教育を充実することで子どもたちが大館に対する愛着心というか誇りの率がやはり10年間で上がった。それに伴い就職率も定着率が上がったってことです。5年10年かかるのでしようけれども、その話を聞いて、仙北市でもやらないといけないなと思ったところでもあります。

赤上副市長

先ほど秋田市まで手を広げてという話があったと思いますが、まずですね、仙北市の企業さんを中心として進めたいなど、素晴らしい企業はいっぱいあります。社会貢献をきっちり果たしているから、当然、残っております。

すので、そこをまず教育者の皆様方から、咀嚼していただいて、子どもに説明するということから必要なのかなど。

今日も訪問させていただいた縫製工場では、一着何十万円もするドレスを作っていて、もちろんこのあたりでは売っていないのですが、そういった企業さんもございますし、それからもう一社では、半導体製造装置の基幹部品を作っているところもございます。そういう話をしていただくことによって、きちりこの仙北市の企業が社会貢献なさっているということですね、伝えていただきたいなと強く思いますので、そこからまず始めていただいて、それで足りないのであれば他に広めていただくっていうのでいいかなと思いますので。まず通勤圏内ですけれども。

田口市長

はい。最後、ちょっと時間もあれですので、先ほど細川委員から自分のお子さんが職場体験に行っただけで勉強になってきたという話がありましたが、どういった会社、職種についてでしょうか。

細川委員

実は、私の住んでいる家から5分ぐらいのコンビニエンスストアに行きました。接客とレジ打ちとか、コンビニに勤めている方々が行う仕事を本当に実際に体験して、お客さんの前でレジ打ったりとかをしてきたそうです。

常に緊張していたようです。私もちょっと気を遣って、買い物に行かない方がいいかなと思ったのですが、一回だけ行きて、何で来たんだと言われましたが、でも働くっていうことはたぶんそういうことなので、ぜひいろんな職種がある中で、お客様商売っていうことをしてくれたっていうのは、私にとってもいい経験だったのでないかなと思います。

田口市長

ありがとうございます。各委員からもこのプロジェクトに関しては、教育委員会が単独でやるような事業ではありませ

るので、企業もそうですし、地域の人たちみんなが子どもたちのこれからについて、やはり関わっていくことになると思いますので、ぜひ、今日ご意見をいただいたことを踏まえて、また、これは私の話になりますけれども、予算等もこれから査定に入りますので、しっかりこのプロジェクトが推進できるように、進めてまいりますので、引き続き皆様からもまたご意見を賜りながら、準備を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そうすれば協議案件（１）につきましてはここら辺で切り上げさせていただいて、続ひての案件の方に移らせていただきますがよろしいでしょうか。

はい。それでは、案件（２）、学校適正配置に関わるアンケート調査などについて説明をお願ひいたします。

若松学校適正
配置準備室長

学校適正配置準備室からは、５月の会議以降の取組み状況を３点報告させていただきます。１点目は６月から７月にかけて開催した学校適正配置に関する意見交換会の報告、２点目は学校適正配置検討委員会の設置及び第１回会議の報告、３点目はアンケート調査の実施についてです。

まず１点目の、意見交換会の報告ですが、資料の１枚目をご覧ください。６月２７日から７月５日にかけて、市内各小学校体育館を会場に、保護者をはじめとする市民延べ８２人の参加をいただき意見交換しました。

各会場では小・中学校教育を取り巻く現状と課題を共有したうえで、全市的な観点から将来に望まれる学校の在り方について、率直な思いや意見を交わすことができました。参加者からは、児童・生徒数の減少が一層進むことによって、学校生活や各種活動への影響を懸念する意見が多数ありました。また、老朽化が進む校舎の大規模改修や学校統合に関する意見やアイデアのほか、市民の関心を高め議論のスピードを上げて欲しいといった要望もありました。

次のページをご覧ください。各地区毎に、意見交換した内容を整理した表です。既にホームページでも公開し、概要は広報紙でもお知らせしているところです。黒文字は参加者の意見、赤字は市からの返答です。主なものとしては、意見交換の進め方関連では、より多くの保護者が参加しやすいよう、PTAや園の保護者会の機会を利用するなどを検討してほしいといった声や、議論のスピードを上げて欲しいという声が各会場から共通して寄せられました。また、学校、学級の規模関連では、小規模校では人間関係が親密になり、異学年とも仲良くなれる良さを感じているという一方で、小規模化が進めば各種活動が制限され、部活の選択肢が少なく存続も難しくなるなどといった懸念の声もありました。一定規模の中で多様な人との関わりを経験し、切磋琢磨し、良い競争心を身につけて欲しい。複式学級は心配な部分が多いと感じているといった声もありました。裏のページ、学校統合の関連では、児童・生徒数の減少を踏まえると大規模改修に多額の費用をかけてまで存続させていくことに疑問も感じるという声も聞かれました。中には、中学校は市内から等距離の場所へ1校に統合してはどうか。将来的に小中一貫型学校を整備してはどうか。通学の問題も併せて考えていく必要があるといった踏み込んだ意見やアイデアもありました。その他として、児童・生徒数減少の根本原因でもある少子化への対策、移住・定住対策を進めて欲しいという意見もありました。

次に2点目の、学校適正配置検討委員会の関係で報告です。資料、第1回学校適正配置検討委員会会議記録（要旨）をご覧ください。8月29日、第1回検討委員会を開催し、委員は18名全員が出席しました。委員は次のページに記載のとおりです。

初会議ということで、冒頭に委嘱状の交付を行いました。議題についてですが、今回は初会議ということで、全体的には事務局からの説明が中心となりました。

議題 1 では、委員長・副委員長の選出を行い、委員長に鎌田信秋田大学教育文化学部教授が、副委員長に佐藤彰久角館高等学校長が就任しました。

議題 2 は、現状と課題についての説明で、内容については先に開催した意見交換会と配付資料を含めて同じです。

議題 3 は、これまでの取り組みについての説明で、平成 28 年度に学校適正配置研究検討委員会を設置してから、昨年度までに行った取り組みや動きについて説明しました。

議題 4 は、先の各小学校体育館で開催した意見交換会の結果について報告しました。

議題 5 は、今後の進め方についての説明で、目標として本年度内に「学校適正配置方針」を、令和 8 年度までに「学校適正配置計画」の策定を目指すことを確認しました。

議題 6 は、今月実施予定の市民アンケートの実施計画について、調査票の内容などに様々なご意見をいただき検討を行いました。詳しい内容は、後ほど説明いたします。

今回の会議の中で、委員から意見があった主なものとしては、今後、意見交換会を開催する場合はより参加しやすい工夫や、市民に関心を持ってもらう取り組みが必要であるということ。また、適正配置の検討を進めていくうえで、子どもの視点を第一に考えていくことの重要性について確認し合ったところです。

検討委員会に関しては、もう一つ報告があります。会議に関わる公開・公表の取扱いについてです。資料の裏面をご覧ください。9 月定例教育委員会でご了承いただきまして、次回の検討委員会において協議し決定したいと考えています。

言うまでもありませんが、学校適正配置の検討を進めるにあたっては、検討委員会で活発に議論がなされ、その内容を市民に適切丁寧に伝え、理解を得ながら進めることが重要と考えております。ただ、この先、具体的な統廃合の検討が必要になった場合には、地域社会や市民生活に大きく影響を与

える議題となりますので、場合によっては利害や感情が絡む難しい議論になることも十分考えられます。委員それぞれの立場から自由に発言がなされ、活発に議論をしていただくことを期待していますが、発言者個人名が公表されることになれば、それによって発言者のプライバシーが害されることが生じたり、そのおそれから活発な議論が行われにくくなったりすることが無いとは言い切れません。そうした事態が生じない対策やルールを講じておくことが必要と考えるものです。

そこで、一般の会議傍聴の取り扱いについては、①に記載したそのような理由と、②に記載したように主催者からの説明や公表に先行して、情報拡散された場合に意図しない形で伝わったり、市民の不安感や不信感を招いたりするなど、事業推進に悪影響となるおそれも否定できないことから、事務局としては非公開にした方がよいと考えているところです。

2番の会議記録の公開・公表の取り扱いについてですが、発言者個人が特定されず、かつ市民に分かりやすく要約した、先ほどの資料の会議録、要旨という形で、ホームページや広報紙で公表していくことが、適当でより親切ではないかと考えています。もし会議記録詳細版の情報公開請求があった場合には、発言者が特定される情報を除いて対応したいと考えています。

最後に3点目の、アンケートについてです。当初、アンケートは10月頃に実施を予定していましたが、小・中学校を卒業し、自分の進路を強く意識している高校生、そして高校を卒業したばかりの二十歳の世代にもアンケートを行うと良いという教育委員会のご意見を踏まえ、実施することにしました。実施に適した時期が8月であったことから先行して実施しまして、資料のとおり集計がまとまりました。

実施時期、対象者数、回答数は上欄のとおりで、ほとんどの方から回答いただきました。左側が二十歳、右側が角館高

校2年生で、並べて掲載しています。全体的に見れば概ね同様の結果だったと捉えています。将来、地域の子どもが通う学校にどのような教育方針を望むかという設問については、どちらも1位が多様性、集団の中で多様な考えを認め合いよりよい人間関係を築く力を育む学校、2位は切磋琢磨、たくさんの人と関わりながら切磋琢磨し合い力を伸ばしていく学校、3位は状況適応、様々な状況に応じて柔軟に考えたり対応したりする力を育む学校という結果でした。出身校の学級規模別には若干差が見られますが、全体としてはほぼ同様と捉えています。

裏面には、自由記述の意見をまとめています。問6①の少子化が進む地域の教育に関する意見については、共通して部活に関する記述が多くありましたのでキーワードとして赤く着色しています。部活動に対する関心の高さがうかがえます。②自分がいた小中学校のよかった部分については、それぞれ感じていた良さを書いていただきましたので、今後の学校の在り方を考えるうえで大事にしていかなければならない部分だと思います。

問7は職業観について、副市長から高校生に尋ねたい質問として加えたものです。結果を見ると、公務員志望が最も高く、次いで医療系、看護系でこの二つを合わせると公務員と同数です。高齢化が進む社会へ医療・福祉の面で貢献したいという気持ちの表れなのかもしれません。

少々意外だったのは、美容系が多かったことです。年頃的におしゃれに関心が高いからでしょうか、好きなことを職業にしたいという気持ち、応援したくなります。次いでIT系は、社会で求められる進化し続ける技術を身につけて貢献したいという表れでしょうか、市の雇用創出や、ヤマメ・サクラマスプロジェクト、キャリア教育を推進するうえで大変参考になる資料になったと思います。

次のページ、「仙北市の目指すべき教育の姿と学校の在り方

に関わるアンケート調査実施要領」です。今月実施する市民アンケートの計画です。まず調査の目的ですが、学校教育に関する現状と課題について共通の認識をもってもらうとともに、市民が将来の子どもの視点に立ったときに、学校にどのような教育環境を望むのかを把握すること、そして、それを将来に目指す教育像・学校像として、3月の「学校適正配置方針」の策定に反映させることを目的として行うものです。

調査対象者は、0歳児から中学生までの子どもの全保護者、小学5年生から中学3年生、また抽出方式による一般市民1,000人を対象として行います。スケジュールですが、今週中に送付し、今月下旬に回収し、集計・分析作業を行いたいと考えています。

次のページからは、調査票になります。これまで、2度の定例教育委員会と学校適正配置検討委員会でご意見を伺って練り上げたものです。まず、調査票のタイトルから悩みました。学校の適正配置とか学校の在り方といったタイトルでは、統合を前提として推し進めるための調査と誤解を招き兼ねないといった意見もあり、分かりやすく前向きになれるタイトルにしました。また、回答いただくにあたっては、まず現状と課題をしっかりと伝え、理解していただくための情報発信が重要であるという意見を踏まえ、出生数及び児童・生徒数の予測、校舎の老朽化が進んでいること、小規模化が進んだ場合の課題などについても説明を前置きします。

そして、設問内容ですが、大人用の方は、問4で「教育以外の学校が持つ役割としてどう思っているか」、問5で「教育効果の項目別に、より効果を期待できる学校の規模についての考え」、問6で「学校教育を通じてどのような力を伸ばしたいか」、問7で「将来の学校において大切だと思う教育方針」、問8で「将来の教育環境を考える上で配慮すべきこと」について、市民の考えを把握したいと思います。

子どもへのアンケートでは、問3で「学校で身につけたい

こと」「がんばりたいこと」は何か、問4で「今の学校で良さを感じていることは何か」、問5で「このような学校環境であって欲しいと思うこと」、問6で「今の学校の自慢、特徴的な良さ」を聞きたいと思います。このような内容で実施し、将来にどのような教育環境を望むのか、学校になってほしいのか、広く市民の考えを把握したいと考えています。

最後に、学校適正配置に向けた今後の取り組みですが、各学校の冬休み前のPTAで時間を30分ほどお借りして、アンケートの結果報告や、適正配置に向けたこれまで、また今後の動きについて説明をし、時間は限られますが意見交換できればと考えています。

そして、再度、学校適正配置検討委員会の検討を経て、年度内に学校適正配置方針を取りまとめたいと考えております。

田口市長

はい。若松室長ありがとうございました。小・中学校の適正配置に関する意見交換の内容について、それから適正配置の検討委員会の検討内容、また公表・公開について、そして高校2年生と二十歳の集いに集まった方々へのアンケート調査についての報告がありました。今後実施するこのアンケート調査の実施要項の内容についての説明がありました。これから実施する部分についての検討かと思いますが、委員の皆様からご意見ご指摘がありますでしょうか。坂本委員からお願いします。

坂本委員

はい。先日の定例会でも見せていただきまして、非常によく検討されているなという思いでした。先ほどのキャリア教育にも関連してきますけれども、高校生、それから二十歳の方のアンケート、それも今後の教育のキャリア教育だけではなく、学校適正配置の両方に大きく関わってくる内容ではないかと。それを非常に参考にしながら進めてもらえればと思

います。

また、アンケートの中で部活動に関しての厳しい意見がいくつか出ておりましたので、今後取り組まなければならない課題が見えてくると思います。以上です。

田口市長 ありがとうございます。細川委員いかがですか。

細川委員 はい。前回の定例会でもお話しましたが、非常に細かいアンケートの内容を取りまとめていただきましてありがとうございます。こういうような回答をするのかっていうのが、だいぶ興味があります。高校2年生のアンケートの内容も、前回お話したとおりだったのですが、やはり子どもさんたちは堅実に考えているというのが非常によくわかる内容でした。以上です。

田口市長 はい。ありがとうございます。
 それでは、田口委員お願いします。

田口委員 詳細については、定例の委員会で何回かに分けて説明いただいて、その都度、意見交換をしておりますので、今改めてということではないのですけれども、まとめて経過等の説明がございまして、やはりこれから大事になってくるのは、市長からもお話がありましたけれども、市民との問題・課題の共有をどう深めていくかというあたりが、ポイントになってくるのかなというように思います。

 今後、こちらから出かけていくチャンスもあるようですので、待っている説明ではなくて積極的に出かけて行って、現状説明、課題説明をして共有化を図っていくということが大事になってくるかと思っておりますので、提示する資料にはインパクトが必要になってくるかと思いました。

 それから、アンケート結果から部活動がとても話題になっ

ているという説明がありました。この内容については、何も統合を待つ必要はないと思います。子どもたちの選択肢を増やす、地域一体型の部活動、それから地域の移行、これはもう文科省では現在動いていることなので、先進的に、可能な限りですね、スピード感があるような改革を、統合を待つのではなく、進めていける内容ではないかというように思いますので、これは待たなしの改革が必要だと感じました。以上です。

田口市長 はい。ありがとうございます。では、橋本委員お願いいたします。

橋本委員 アンケート内容、それから、報告については、前の教育委員会で説明を受けておりますので、これでよろしいと思います。

今、田口委員からもお話ありましたけれども、部活動の件ですけれども、よく統合するための一つの理由として、部活動ができないということも挙げられておりますけれども、子どもたちの意見の中では合同チームでも差し支えがないし、交流することができて、高校にいったときにそれがプラスになっているという意見もありましたので、単独校で部活動を継続しなければならないという考えに固執する必要はないのではないかというように感じました。

意見交換会の時も、丁寧に説明をしてお答えをいただいておりますので、この後もそういうスタイルでどうかよろしくお願いしたいと思います。以上です。

田口市長 ありがとうございます。教育長よろしいですか。

須田教育長 はい。スピード感を上げて欲しいという要望がいくつかの地域からあったわけです。ただ、まだ特に角館地区のP T A

会長からは、角館の住民に角館から学校が無くなるのだというくらい話をしないことには、土俵の上に乗ってくれないので、何とかそのあたりを、そのくらいの危機感を持って望んでほしいということを伝えて欲しいとのお話もありました。

まず、この部分について、時間をかけてじっくりと協議していかないといろいろ難しい場面ありますので、丁寧な説明をしていきたいと思っているところであります。

田口市長

はい、ありがとうございます。いずれにしても、これから実施する子どもたちとその親御さんへのアンケート調査の結果を踏まえたうえで、今後について検討していく必要があると思います。内容について私も拝見させていただいて、非常に答えやすく、またアンケートの作り方も非常にこう書きやすい配慮がされておりますので、まずは実施して回答数をしっかり高くしていただいて、それを踏まえて今後検討していければなと思っています。

比較的ですね、適正配置の意見交換の中では合併やむなし的な意見が多いのはちょっと意外だなと思いました。校舎を残したいけどもというような意見もありましたので、まずはそういった意見をしっかり集約したうえで、適正配置について決めていくということでもいいかと思います。

それでは、案件（２）の学校適正配置についてはよろしいでしょうか。

須田教育長

一つ、次長から、学校の部活動地域移行についての現状と課題、現在のその実態等について、報告していただければありがたいです。

鈴木教育次長
兼学校教育課

はい。現在、部活動指導員をまず6名お願いしまして、配置しております。さらに、合同チームっていうのは中学校では、

長

秋の新人戦は、西明寺中と桧木内中、それから生保内中と神代中も野球では合同チームとなっております。子どもたちにとっては出場する機会がありますので、合同チームは効果的ですし、非常に有効だと思います。ただ練習等に関しまして、移動しなきゃいけないです。

それから、実は文化部も非常に人が少なくて、生保内中と西明寺中と桧木内中が吹奏楽部を合同で県内コンクールに出ています。それだけ部員が少なくなっています。そこで問題になったのは、練習場所がその3校の場合にどこで練習するのか。そういったときに、生保内中でやってもらったのですが、移動手段がないということで、非常に親たちが苦勞して送迎したということもあります。

ですので、簡単に合同でやればいいんだということでないってことを理解していただきたいなと思いますし、それだけまず、親もそれから子どもたちも本当にやりたいのは山々なんですけれども、そういう苦勞しながら工夫しながらやっているということを知っていただきたいなと思います。

田口市長

はい。それでは協議案件につきましてはよろしいでしょうか。続いて協議案件（3）東地区公民館体育館の在り方について、説明をお願いいたします。

佐々木教育次
長兼角館公民
館長

はい。角館公民館の佐々木ですよろしく申し上げます。資料に沿って、説明させていただきます。

1枚目、東地区公民館体育館の今後の在り方について、こちらから始めさせていただきます。現在、抱えている課題や背景につきまして、角館東地区公民館、体育館は旧角館東小学校から施設を引き継ぎ、延べ43年が経過し、平成26年に耐震診断を実施しております。

仙北市の個別施設計画では、利用者の安心・安全を重視しまして、公民館部分を閉鎖、体育館のみ改修して利用していくこ

ととしていました。しかし、耐震改修工事にかかる費用が概算で1億円を超えること、近年体育館の利用者数が減っていること、将来的に見ると小・中学校の統廃合等による空き教室や体育館の増加、費用対効果、そして何より、市民の安心・安全を第一に考え、旧校舎だけでなく、体育館も閉鎖へと方向性を変えております。

そして、閉鎖につきましては、現在、利用している個人や団体に対して、代替施設の提供などが必要になりますが、陶芸や樺染めなど、専用教室を必要とする団体については、受け入れ施設の選定及び所管課と交渉しており、陶芸の電気釜の移設も合わせて重要な課題となっているところでございます。

課題解決に向けた案としましては、利用状況を考慮しまして、体育館の今後の在り方について、代替施設なども含め、利用者、利用団体の意向を調査し、利用者への丁寧な対応、代替施設として現在想定される所管部署とも引き続き検討を重ねていきます。将来的にはいずれの施設も廃止し、普通財産として管財課に移管し、解体の方向で進めるのが適当と思われまます。そのため、今後は施設の管理運営について総務部局との連携を図り、公共施設等の個別施設計画の見直しなどについて、全庁的に進めるべきと考えております。

その他といたしまして、現在、公民館に物品を存置している部署、また東地区公民館、旧校舎部分の代替施設案、体育館の代替施設案、それぞれの説明が掲載されております。

説明は以上でございます。

田口市長

はい。旧角館東小学校の特に体育館について、現在利用していただいておりますけれども、老朽化が著しいということもありますし、また、耐震補強等でこれから補強するとすれば、莫大な費用がかかるということ。それから、私も報告を受けておりますが、使用者数がここ数年で半減している。これは、コロナの影響もありますけれども、非常に大幅に使用される人の

数が減っているということから、ただいまの説明の通りでございます。

それでは委員の方から意見をお出しただければと思います。橋本委員の方でよろしいでしょうか。

橋本委員

まず築年数が43年経過しているということで老朽化が進んでいると思います。それを更に改修するというので、費用が約1億円見込まれるということですので、これらのことを考えた場合、閉鎖もやむを得ないのではないかと思います。この資料の中でも述べられていますけれども、利用者の数が減っていると言いつつも利用されている方がおりますので、代替の施設について丁寧に検討していただきたいというように思います。

旧中川小学校、中川コミュニティーセンターですか。それが現在どのように使用されているかも詳しくわかりませんが、あそこには体育館もありますし、グラウンドもあります。それから空き教室もありますので、そういうものをうまく利用できるとすれば、代替施設の非常に大きな候補になるのではないかと思いますので、そのあたりのところを検討していただければいいかなというように思います。以上です。

田口市長

はい。ありがとうございます。田口委員お願いします。

田口委員

はい、築年数からの結果、劣化状況、それから耐震の診断等の結果を見て、その後の改修が進んでいないのを見ると、やはり利用者の安全・安心制限ができないような施設で活動は不可能だと思いますので、公民館の現状等を実際に見ると、こうした判断はやむを得ないのかなというような思いを持っておりますけれども、やはり問題は現在活動している皆さんの活動に支障がないような代替場所が準備できるかどうかが一番問題だと思いますけれども、3枚目の資料を見ると、な

かなか難航している様子を伺い知ることができます。

そこを何とか調整がつくように進めていかなければならないことだと思います。活動やめてくださいというわけにはいかないと思いますので、代替場所、活動場所が何とか確保できることを願いながら、また、それができてこそその意見といえますか、廃止に繋がると思います。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。細川委員お願いします。

細川委員 はい。私の意見ですけれども、やはり築年数が43年経過するということと、修繕費に1億円という莫大な金額がかかるようですので、やはり体育館を閉鎖する方向で進めていくべきだと思います。

代替案で体育館とかを見て、利用の可否がありますけれども、要は球技関係、ソフトボールだったり、そういう関係はまずほぼ体育館ってボールを使えないと壁に穴が開いたりとか、ガラスが割れたり、そういうこともあって、やはり雨の日になかなかこういう球技するスポーツの方々は本当に大変苦勞しています。本当に練習するボールでなく、例えばテニスボールを使ってやったりとかを野球でしてきたりもしてたので、少し手を加えればそういうことも使えるような体育館でできたりしますので、ちょっと壁際にネットを張ってみたいだとかをすれば、できると思いますので、少し工夫しても考えながら進めていったらどうかなと思います。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。

坂本委員お願いします。

坂本委員 個人的に感傷的な気持ちを言えば、自分の家から本当に200メートルくらいのところにあり、ここが建てられたときに私は中学生でした。この学校に入りたかったなと思いまし

たが、その後、うちの子どももそこで6年間お世話になり、私も何度も足を運びまして、非常に思い出が多い場所ですので、その建物が無くなるということにはやはり寂しさっていうのは当然拭いきれないものがあります。ですが、市民の安全を確保というためには、やむを得ない判断だと思いますし、いずれ解体ということになっていくことも仕方ないことだろうとは思っています。

ですが、やはり他の委員さんもおっしゃっているように、今の利用者さんたちがちゃんと納得して、他の場所で今までと同じ同程度のクオリティの活動ができるような、そういった場所が早急に見つかればいいなと思います。橋本委員が今おっしゃっておいりましたけど、少し工夫しながら、お互い協力しながらできれば良いと思います。

田口市長 はい、ありがとうございます。教育長いかがですか。

須田教育長 特に中川体育館で球技を使う場合には、防球ネットが必要だと思います。ただこれも予算措置については教育委員会ではありませんのでここについては何とか対応していただければと思います。ぜひそのあたりは市側で検討していただければと思います。そこがうまくいけばスムーズに行くところもあります。また、あわせて陶芸教室の方の窯の設置についても、ぜひ前向きに検討していただければと思います。私からは、以上です。

田口市長 なんか球を返された感じがしますけども。いずれにしても委員の皆さんおっしゃっているとおり、現在、東地区公民館をご利用されている市民の皆さんが、こういった活動を継続していける環境作りがやはり一番重要ですので、確かに危険だ、危ないもう廃止しなければというのはその通りなのですが、やはり今の活動に支障のない形でしっかり寄り添

って向き合っていきたいと考えておりますので、ここについても、解決に向けて市の方としても、また、教育委員会とも連携しながら取り組んでまいりますので、ご理解いただければと思います。

そうすればこの東地区公民館につきましてはよろしいでしょうか。

はい。その他、何かございませんか。委員の皆様から何かご指摘とかご提案とかあればお伺いします。

大丈夫ですか。そうすれば、せっかく出席しておりますので、そちらの席の皆様から一言ずつ御願います。鈴木次長から願います。

鈴木教育次長
兼学校教育課
長

今日、いろいろご指摘いただいたものを見直していきたいなと思います。

適正配置検討委員会に参加しまして、非常に素晴らしい方々が来てくださいまして、実は仙北市のためにという気持ちがありまして、何か学校適正配置の検討にだけするのも勿体ないなというくらい、非常に1回目から良い意見交換がありました。

それから実は、ふるさと秋田ラン！が来週あるのですが、その練習会を毎週土曜日旧角館南高校で行っているのですが、小学生からいろいろ年齢が幅広く壮年まで、そしてコーチも代わり、一気に若々しくといますか、若返りまして、非常に皆さん、和気あいあいと非常に良い雰囲気で行っております。それも仙北市のために頑張っている姿を見まして、仙北市のためにという思いがあれば、何かこう良い雰囲気になるのだなということ学びました。今日はありがとうございました。

藤村教育部長

はい。今日は3つの協議案件について、様々なご意見等をいただきありがとうございました。ヤマメ・サクラマスプロジェクトにつきましては、教育長の指導の下、今年5月の末から教

育委員会内でも何度も何度も協議を重ねて、仙北市幸福度No. 1の構想の絵を描いているわけですがけれども、本当に教育の方針の柔軟性、切磋琢磨、多様性につきましては、学校適正配置でとったアンケートで、今の子どもたちが思っている集大成の3つのポイントになっています。私たちもこれから、子どもたちが学習していく中で、まだまだ課題があります。例えば、ICTを活用した授業がどんどん入ってきています。それにも対応していかなければいけないので、今後、皆様とも連携をしてご協力をいただかなければならないと思っています。

また、東地区公民館・体育館の在り方に関しましても、利用されている市民の皆様の安心・安全が第一だと思っておりますので、丁寧に代替施設につきましても、関係機関とも調整を図っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

赤上副市長

はい。ヤマメ・サクラマスプロジェクトというのは、私も同じ思いを抱いておりますので、ぜひとも実施していただければと思います。

もう一点お願いがですね、子どもたちだけではなくて、親御さんたちにもこの素晴らしい企業を紹介していただかないと、我々の世代だと秋田には何も無いから出て行けと言われた世代ですので、そういう過ちを起こさないようにですね、ぜひとも親御さんも一緒にこの素晴らしい企業を紹介していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

小田野総務部長

はい。先ほど市長がお話されていましたが、市民意識調査がありまして、本日子どもたちの学校のアンケートを見て、学校の生徒たちは市民意識調査にかぶらない部分ではあるので、今後のまちづくりにも多少なりとも利益があるかと思い、拝見したところでした。今後、小・中学生にもアンケートされるということで、私の単なる希望ですので考慮するかは別ですがけれども、例えば、市民意識調査の中では、仙北市の住みやすさとか

地域への愛着とかを調査していますので、もしスペースがあれば、同じような視点で質問していただくと、親世代と子どもたちの先なんかも見えていいのかなと思いましたので、もし機会があれば、検討いただきたいと思います。

畠山総務課長

はい。ヤマメ・サクラマスプロジェクトについては、かなり来年度の予算編成に向けて内部で検討されたものかとは思いますが、ちょっと一点だけ。前に、県でも夢ガイドブックのような、色々な企業の紹介をする冊子を作ったのですが、結局その時は部数が限られていて更新がされず、あまり行き渡っていないと。企業の状況や人というのは入れ替わりが激しいので、毎年同じような取材をして、毎年同じような冊子を作っていくことは難しいと思うので、現在、GIGAスクールで子どもたちもパソコンを授業で使えるという状況にあるので、アプリとかポータルサイトで、動画で企業や人を紹介し、リアルタイムで会社の人々が修正できるような仕組みがあればもっと広めることができるのではないかと思います。保守の費用などはかかると思いますが、委託で製本していくよりは効率よくできるかと思いました。

湯澤教育総務
課長

はい。私からは、ヤマメ・サクラマスプロジェクトの中のキャリアマイスターによる講演に関わる部分なのですが、うちの一番下の子どもが今は小学校5年生で、去年の4年生の時にPTAの学年の主催で、今思えば、6年生が現在やられている志教育で、昨年度4年生でもやっていただきました。実際に、角館の安藤雄介さんですが、安藤さんのこれまでの経緯、思い、そういった話を子どもたちにさせていただいて、更に去年、4年生の子どもたちが自分の夢、夢を持つことその夢を実現するためには、ここの高校に行って、こういう大学に行きたいという、そういう将来設計をつくる内容だったんですが、あるお母さんの感想では、うちの子どもがもうこんな具体的な

将来設計をつくるなんてとてもびっくりした、とすごく感心していました。

ということで、うちの子もそうだったんですけれども、4年生でもかなり大切な、インパクトのある内容だったのかなと思います。ヤマメ・サクラマスプロジェクトでいきますと、更に重要なのはやはりその地元で生きていただけるように地元へ貢献していけるようにという視点をそういったものに加えながら、そこを当然重点にしながら、この後進めていければ非常に有効なものであるなと思っております。

門脇北浦教育
文化研究所長

はい。今日は本当にありがとうございました。思いを共有して、子どもたちを育てていくというところがすごく大切なのだなど。いろんな方の思いを共有して子どもたちに、なるほどそうだったんだということもあると思います。そこが大事だと感じております。頑張っていきます。

一つ余談ではありますが、本日、山形県金山町の教育委員会から来客がありました。それは何かといいますと、金山町の高校、分校になってしまった学校なのですけれども、そちらの方に仙北市のクロスカントリーをやっている子どもをぜひ呼びたいというか、県外から来ていただけないかというようなことでした。高校というか、市教育委員会の方で全面的にバックアップをして街を活性化していくとか、人口減少から元気がなくなっているところに一つ喝を入れるというのも変ですけども、頑張っていこうという意図の表れだというように感じて、こちらでも負けてられないなというように思ったところがありました。以上であります。

若松学校適正
配置準備室長

はい。私の方からは、この度、夏の意見交換会、それから高校生と二十歳のアンケート、一般市民の方にはこれからアンケート調査をするわけですけども、いろんなご意見を聴くことができっております。そうした思いにまずは応えられるように、

これから方針を作っていくわけなのですけれども、一つ一つ丁寧に話を聞きながら、原案作り努めていきたいなと思ったところです。そして、やはりここで育った人材が外へ行ってしまうということは非常に悲しいことですので、ヤマメ・サクラマスプロジェクトの、小学校から中学校の育ちの中にしっかりとした環境を作れるようにしていきたいなと思います。以上です。

高橋中央公民館長

はい。今日、午前中に私も西明寺小学校のくりっこ探検隊について行って、kimotoさんとストロベリーファームさんに子どもたちが学習しに行きました。私がついて行って感じたのは、kimotoさんもストロベリーファームさんも、仙北市で行う意味、またはその仕事はどういったことでやっているのかというようなところまで話をしてくれていました。仕事で地域を良くするというようなところまで繋がっている、ただお金を稼ぐだけでなく、地元の食材を使ってやることによってとかってというような話をしていただいていたいました。

そういう、地元を学んだような子どもたちが、私たち公民館の事業を受けてくれるような、また、子どもたちが何かしたいというようなことを公民館で受けれるような体制を整えて、更に子どもたちが地元に愛着を持って持てるような流れを作っていけたらなと思って今日感じたところでした。

あと、施設等に関しまして、東地区公民館にちょっと携わっていて、改修を目的にずっとやっていて、今度はこういう閉鎖に向かっていくというようなものを一通りちょっとまだできてはいませんが、その他にもやはり、適正なところに持って行かなければならない施設が公民館の中でもございまして、そういうのを検討して、何はともあれ一番は安心とか安全を確保するということですのでけれども、他の部分も整えながら合理化・効率化ということを図って、適正な管理をとということをちょっと意識していかなければならないなと思っております。

以上です。

佐々木教育次
長兼角館公民
館長

はい。まず、今回、東地区公民館の体育館の今後の方向性のベクトル設定の大きな確認ができたこと、それがまず大きな成果だと思っております。

そしてまた、利用してる方へのフォロー、代替案の提示、これをどれだけ丁寧に出せるか、それによってまたその方々のスポーツ振興、生涯活動そういうものをお手伝いできれば、それは教育委員会、公民館活動の手助けができればと思っております。以上です。

佐々木主事

はい。2つ目の案件でアンケートの報告がありましたけれども、とても丁寧な内容でしたので、かなり事務局側で手をかけていて、労力を費やしたのではないかと思います。その分、必要な生の声というか、本音を聞きだせる機会だと思っておりますので、アンケート結果はとても重要な資料になると思っております。

それを取り入れられれば、みんなが納得のいく仙北市になっていくのかと、少し楽しみにになりました。以上です。

武藤生涯学習
課長

はい。私は、今日一番盛り上がっていた職場体験についてです。職場体験っていう事業名ですけれども、仮に今年度の事業名を別の言葉に置き換えようとした場合に、企業体験、企てるほうの企業ですね、企業体験であると思ってる方と、職種の体験と考える人がいるんだなというように感じました。企業の体験であれば、仙北市内の企業を見てもらいましょうというやり方が正解の一つですし、職種の体験ということであれば、そこにはないものは遠くに出いってでも、体験させるやり方が正解の一つなのだと思いました。

また、総合結婚式場でのお話がありましたけれども、その仕事の表を見せるのか裏を見せるのかっていう話になるかと思えます。サービス業に興味がある方にサービス業の裏側を見せ

ると、それはサービス業じゃなくても同じだとは思いますがけれども、興味を無くすでしょうけども、例えば物の開発に興味のある人だとすると、箸を袋に入れている作業が難儀そうだなって思ったのであれば、じゃあ僕が又私とその機械を作ろうじゃないか、それが起業の方の起業に結びつくのであれば、その体験は成功だというようになるんだろうなと感じました。

信田市民会館
長

何点かお話しさせていただきます。総合教育会議第2回なんですけど、第1回に参加したときにも私たちのイベントの前でした。先ほど橋本委員の方からあったのですけれども、基本的に第1回目のイベントというのが、まず、市民会館に今まで来たことがない人たちが足を運んで興味を持ってもらうことに繋がったイベントでした。

ちょうど11月3日、その第2回のイベントを開催しようとしております。今回第2回のイベントにつきましては、市長、教育長から了解いただきまして、仙北市長杯・教育長杯争奪のeスポーツの大会を行うということで、もちろん中学生じゃなくても、ここにいる方々も参加しても良いので、参加しなくても見に来ていただくだけでも結構ですので、どうか足を運んでください。よろしく申し上げます。

あと、今日の会議の中でいろいろお話があったのですが、総合教育会議というものが、例えばまず大人の人たちが枠組み、外枠を作るってところの会議だと思っています。実際にその中で子どもたちがどういうように動くかってところの会議だと思っていますので、まずこういう会議がしっかり子どもたちに伝わるような会議であればなど。大人だけが納得して、動かすだけでは話にならないと思いますので、今のこの会議の内容と同じ説明を皆さんができるような会議であればいいなと思っています。以上です。

田口市長

はいありがとうございました。長時間にわたりありがとうございました。

ございます。他に何かございませんか。

はい。皆さん今日感じられた通り、このヤマメ・サクラマスプロジェクトについてもそうですし、これから実施するアンケートについても非常に前向きで、いい取り組みになっていくのではないかなというのを予感させます。私もいろんな会議に参加させていただいておりますけど、気持ちが明るくなる会議はあんまりなくて、非常にこの教育総合会議を楽しみにしておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

それでは、以上で議長として任を下ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

小田野総務部長

本日は、皆様から大変貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。これをもちまして、令和4年度第2回仙北市総合教育会議を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(午後3時50分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員